

第三十五回企業活性化研究分科会・議事録

<第三十五回 2010年10月9日(土) 時間:13:30~16:00 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:井端、木村、齋藤、菅原、高市、長井、星野、松本、宮川、山本、依田、渡邊

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ①:『“Corporate Governance and Financial Constraints on Strategic Tunrarounds” by Igor Filatotchev and Steve Toms』

・報告者:菅原智久

4. 発表内容

テーマ③:『粉飾企業の分析』

・報告者:木村充宏

・配布資料:7枚

・報告内容の要旨

本報告は、アイ・ビー・イーホールディングス(以下、「同社」という。)の粉飾について分析したものである。平成21年2月16日に提出された訂正報告書によると、同社は、平成13年3月期から平成18年3月期までに、循環取引やスルー取引などを用いた粉飾及びソフトウェアの購入やリース取引を用いた粉飾などを行っていることが明らかになった。

平成19年3月期から平成21年3月期については、不適切な取引は行われておらず、また、粉飾が判明した取引について、過年度に遡り計上を取り消す等の適正な会計処理を行った。このような状況を鑑み、本分析では平成20年3月期と平成21年3月期における損益計算書および貸借対照表における訂正状況を整理することにより粉飾の状況を確認している。また、粉飾が行われた平成13年3月期から平成18年3月期における、主な財務諸表項目の訂正前後の差分額、回転率の差分から分析を試みている。

分析の結果、特に平成16年3月期における財務指標等が異常の数値を示していることが判明している。訂正報告書によると、不適切な疑いのある取引はすべて旧経営体制のもとで行われていたことが示されており、それ以降の新経営体制ではそのような取引は行われていない。しかしながら、新経営体制がそれ以前の粉飾について認識していたか否かについては疑問の残るところであるとしている。

(文責:齋藤幸雄)